

表 7 各群共通用語の理解度 [N=300]

各群共通用語	A 群 [N=100]	B 群 [N=100]	C 群 [N=100]	合計 [N=300]
吐き気	96 (96.0)	98 (98.0)	97 (97.0)	291 (97.0)
筋肉痛	95 (95.0)	98 (98.0)	98 (98.0)	291 (97.0)
くしゃみ*	98 (98.0)	92 (92.0)	100 (100.0)	290 (96.7)
いぼ	91 (91.0)	85 (85.0)	93 (93.0)	269 (89.7)
解熱	87 (87.0)	83 (83.0)	86 (86.0)	256 (85.3)

\* $\chi^2$ 検定 P<0.05

人数 (%)

表 8 分かると回答した各群共通用語の数 [N=300]

分かると回答した 各群共通用語の数	A 群 [N=100]	B 群 [N=100]	C 群 [N=100]	合計 [N=300]
1	1 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.3)
2	1 (1.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	3 (1.0)
3	5 (5.0)	11 (11.0)	3 (3.0)	19 (6.3)
4	16 (16.0)	19 (19.0)	17 (17.0)	52 (17.3)
5	77 (77.0)	69 (69.0)	79 (79.0)	225 (75.0)

人数 (%)

### 3-2-2. 各調査用語の理解度

各群共通用語の 5 用語全てを分かると回答した 225 人における、全 492 用語の理解度の平均は 53.7% (範囲: 0.0~100.0%) であった。そのうち「ルビなし」、「ルビあり」の各 215 用語の理解度はそれぞれ 53.4% (0.0~96.1%)、51.1% (1.3~100.0%) であり、統計学的有意差は認められなかった (Student の t 検定、P=0.362)。また、53 用語の「かな用語」の理解度は 61.1% (5.2~100.0%)、9 用語の「カッコ付き用語」は 71.9% (41.8~86.1%) であった。

#### 3-2-2-1. 同一用語における「ルビなし」、「ルビあり」の理解度

215 用語の同一用語において、それぞれ「ルビなし」、「ルビあり」による理解度を図 1 に示した。177 用語 (82.3%) の理解度においては有意差がなく、ブルーの点で示した 9 用語 (4.2%) の理解度においては「ルビあり」で有意に高く (P<0.05)、「ルビなし」と「ルビあり」の理解度の差の平均は 24.5% (5.8~50.8%) であった。一方、オレンジの点で示した 29 用語 (13.5%) の理解度において、「ルビなし」で有意に高く (P<0.05)、「ルビなし」と「ルビあり」の理解度の差の平均は 19.0% (9.3~29.8%) であった。

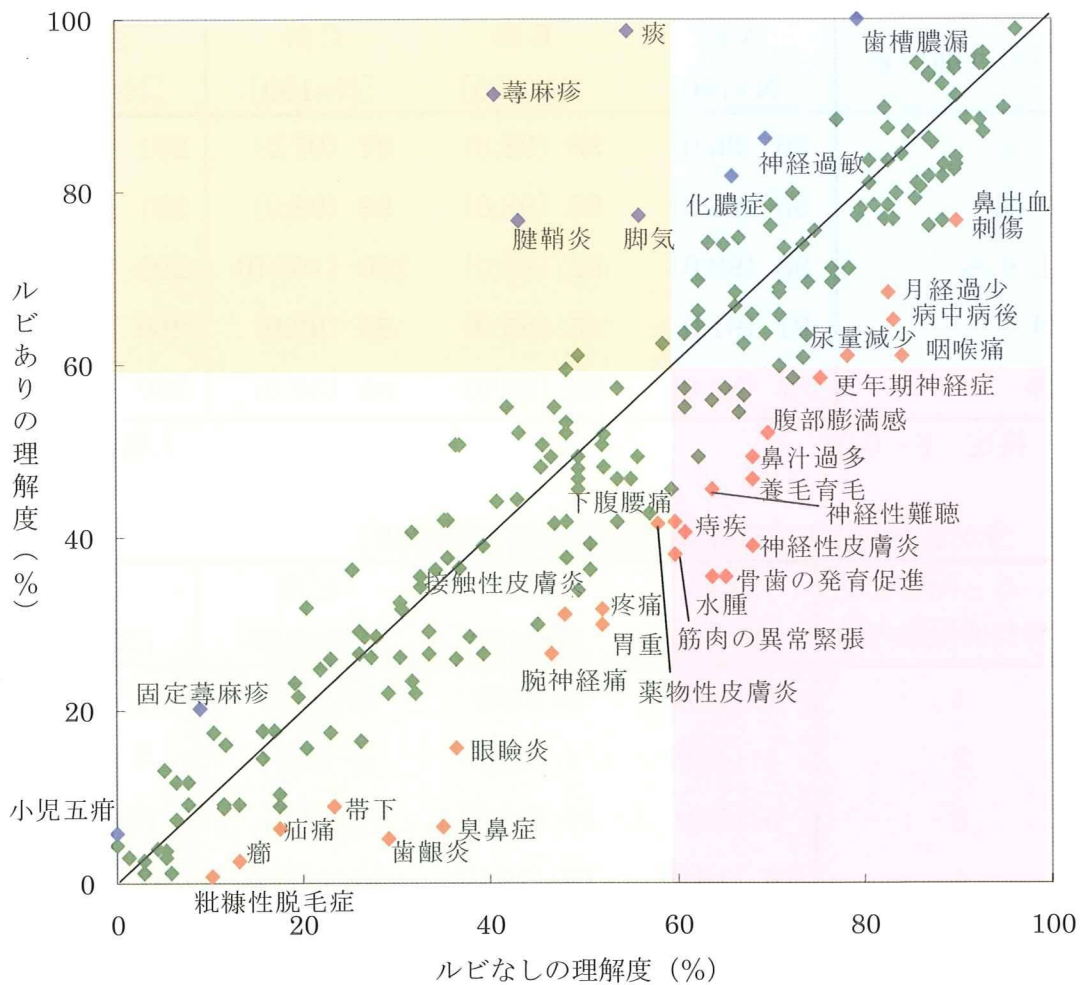


図1 同一用語における「ルビなし」、「ルビあり」の理解度 [N=225]

### 3-2-2-2. 同一用語における「かな用語」と「ルビなし」、「ルビあり」の理解度

同一用語において「かな用語」を「ルビなし」、「ルビあり」と比較した10用語の理解度を表9に示した。「かな用語」の理解度が「ルビあり」と比較して有意に高かった用語はなかったが、3用語（「蕁麻疹」、「痰」、「喘息」）において、「ルビなし」と比較して「かな用語」の理解度が有意に高かった ( $P < 0.05$ )。また、2用語（「蕁麻疹」、「痰」）において、「ルビなし」と比較して「ルビあり」の理解度が有意に高かった。一方、「刺傷」のみにおいて、「かな用語」、「ルビあり」の理解度は「ルビなし」と比較して有意に低かった ( $P < 0.05$ )。

表9 同一用語における「かな用語」と「ルビなし」、「ルビあり」の理解度 [N=225]

かな用語	理解度 (%)	ルビなし	理解度 (%)	ルビあり	理解度 (%)
毛のう炎	14.5	毛嚢炎	5.1	もうのうえん 毛嚢炎	13.0
めんちょう	22.1	面ちょう	30.4	めん 面ちょう	31.6
じんましん	94.8	蕁麻疹	40.5	じんましん 蕁麻疹	91.3
たん	96.2	痰	54.5	たん 痰	98.6
蓄のう症	87.0	蓄膿症	77.2	ちくのうしょう 蓄膿症	88.3
気管支ぜんそく	94.2	気管支喘息	85.7	きかんしぜんそく 気管支喘息	94.9
ぜんそく	100.0	喘息	89.6	ぜんそく 喘息	94.9
さし傷	64.6	刺傷	89.9	(ししょう) さしきず 刺傷	76.6
しっしん	96.2	湿疹	92.2	しっしん 湿疹	95.7
どうき	98.6	動悸	96.1	どうき 動悸	98.7

\*  $\chi^2$ 検定 P<0.05

### 3-2-2-3. 同一用語における「カッコ付き用語」と「ルビなし」、「ルビあり」の理解度

同一用語において「カッコ付き用語」と「ルビなし」、「ルビあり」と比較した7用語、「ルビなし」と比較した2用語の計9用語の理解度を表10に示した。「カッコ付き用語」の理解度は、「ルビなし」と比較した9用語中5用語で有意に高く (P<0.05)、「ルビあり」と比較した7用語中4用語で有意に高かった (P<0.05)。

表 10 同一用語における「カッコ付き用語」と「ルビなし」、「ルビあり」の理解度 [N=225]

カッコ付き用語	理解度 (%)	ルビなし	理解度 (%)	ルビあり	理解度 (%)
眼瞼炎 (まぶたのただれ)	41.8	眼瞼炎 *	36.2	がんけんえん 眼瞼炎 *	15.6
腱鞘炎 (手・手首の痛み)	66.7	腱鞘炎 *	43.0	けんしやうえん 腱鞘炎 *	76.6
末梢血行障害 (手足の冷え・しびれ)	71.0	末梢血行障害 *	45.5	まつしやうけつこうしやうがい 末梢血行障害	48.1
頭重 (頭が重い)	84.4	頭重 *	48.1	ずじゆう 頭重	37.7
咽頭痛 (のどの痛み)	83.5	咽頭痛 *	62.3	いんどうつう 咽頭痛	66.2
整腸 (便通を整える)	81.2	整腸	80.5	せいちょう 整腸	83.5
扁桃炎 (のどのはれ、のどの痛み)	86.1	扁桃炎	79.7	へんとうえん 扁桃炎	77.9
腸内容物の急速な排除 (食あたり)	73.4	腸内容物の急速な排除 *	24.6	—	—
紫外線その他の光線による眼炎 (雪目など)	59.4	紫外線その他の光線による眼炎	50.6	—	—

\*  $\chi^2$ 検定 P<0.05

### 3-3. 個人の理解度

#### 3-3-1. 各対象者背景における個人の理解度

各個人において調査対象とした用語に関する個人の理解度の平均は、55.0% (範囲：12.4～94.7%) であった。

各対象者背景における個人の理解度を表 11 に示した。性別では女性が 58.2% と有意に高く (P=0.01)、職業では「職なし」が最も有意に高く 61.1%、次いで「職あり」が 54.6%、「学生」が 34.9% であった (P=0.001)。漢字能力検定の取得の有無では「なし」が 55.8% と有意に高く (P=0.005)、健康への関心の程度は「少しあり」と比較して「あり」が 57.4% と有意に高く (分散分析、P=0.001)、既往歴・現病歴の有無においても「あり」が 59.4% と有意に高かった (P=0.001)。また、年齢では、「20 歳代」は 38.3%、「30 歳代」は 48.3%、「40 歳代」は 64.8%、「50 歳代」は 56.2%、「60 歳代以上」は 66.9% と、「60 歳代以上」が最も高く、年齢が高くなる程理解度が高くなる傾向がみられた (Jonckheere-terpstra 検定、P<0.05)。

表 11 各対象者背景における個人の理解度 [N=225]

項目	回答	理解度 (%)
性別	男性	[N=107] 51.4±19.9
	女性	[N=118] 58.2±19.5
年齢***	20歳代	[N=39] 38.3±16.8
	30歳代	[N=43] 48.3±17.1
	40歳代	[N=45] 61.8±19.8
	50歳代	[N=50] 56.2±17.6
	60歳代以上	[N=48] 66.9±15.8
職業	職あり	[N=126] 54.6±19.7
	職なし	[N=78] 61.1±17.6
	学生	[N=21] 34.9±16.3
最終学歴	中学卒・高校卒・専門学校卒・短大卒	[N=159] 54.8±20.1
	大学卒・大学院卒	[N=64] 54.9±20.0
	その他	[N=2] 67.2±7.9
家族内の医療従事者	あり	[N=18] 63.1±18.2
	なし	[N=207] 54.3±20.0
漢字能力検定の取得	あり	[N=11] 38.6±21.2
	なし	[N=214] 55.8±19.6
健康への関心	あり	[N=149] 57.4±21.4
	少しあり	[N=74] 50.3±16.1
	なし	[N=2] 47.9±4.2
既往歴・現病歴	あり	[N=112] 59.4±18.7
	なし	[N=113] 50.6±20.2
OTC薬の購入又は使用経験	あり	[N=213] 54.3±20.1
	なし	[N=12] 67.2±11.8

\*Student の t 検定 P<0.05

\*\*Bonferroni の多重比較 P<0.05

\*\*\*Jonckheere-terpstra 検定 P<0.05

### 3-3-2. 個人の理解度に影響を及ぼす要因

個人の理解度に関して、理解度に影響を与えている要因を数量化理論 I 類により分析した (表 12)。説明変数のうちレンジ及び偏相関係数が高かったのは年齢であり、レンジは 19.2082、偏相関係数は 0.3713 であった。またカテゴリーのうち年齢の「60歳代以上」はカテゴリー一値が 8.0155 と最も高く、理解度を高くする要因として関連が高かった。

表 12 個人の理解度の要因分析 [N=221] \*

アイテム	カテゴリー	カテゴリー値	レンジ	偏相関係数
性別	男性	-3.8206	7.2167	0.1889
	女性	3.3961		
年齢	20 歳代	-11.1928	19.2082	0.3713
	30 歳代	-7.4061		
	40 歳代	7.2354		
	50 歳代	1.4018		
	60 歳代以上	8.0155		
職業	職あり	-1.2568	11.3941	0.1879
	職なし	4.0734		
	学生	-7.3207		
最終学歴	中学卒・高校卒・短大卒・専門学校卒		3.9604	0.0956
		-1.129		
	大学卒・大学院卒	2.8314		
家族内の医療従事者	あり	4.3373	4.7219	0.0758
	なし	-0.3846		
漢字能力検定の取得	あり	-3.4502	3.6309	0.0449
	なし	0.1807		
健康への関心	あり	1.2259	3.7713	0.1017
	少しあり	-2.4854		
既往歴・現病歴	あり	1.4879	2.936	0.0836
	なし	-1.4481		
OTC 薬の購入又は使用経験	あり	-0.0844	1.8649	0.0229
	なし	1.7805		

数量化理論 I 類 \*最終学歴が「その他」の 2 人、健康への関心が「なし」の 2 人、計 4 人を除く

#### 3-4. 低理解度用語の抽出

OTC 薬の添付文書の「効能又は効果」に記載されている用語のうち、理解度が 60%を満たない 135 用語の用語又は表現を低理解度用語として表 13 に抽出した。このうち最も理解度が低い用語は皮膚用薬の「糝糠疹」、眠気防止薬の「小児五疳」であり、ともに 0%であった。

なお、全調査用語の理解度は Appendix4 に示す。

表 13 各薬効群における低理解度用語の一覧

薬効群 (低理解度用語数)	低理解度用語		
解熱薬・鎮痛薬 (2)	音響外傷性難聴	疼痛	
かぜ薬 (4)	悪心 痰	気管支カタル	頭重
鎮咳去痰薬 (3)	咳嗽	扁桃周囲炎	肋膜炎
耳鼻科用薬 (3)	臭鼻症	鼻カタル	副鼻腔炎
胃腸薬 (9)	胃アトニー おくび 呑酸	胃重 さしこみ はき下し	胃部膨満感 癩 疝痛
目薬 (3)	眼瞼炎 紫外線その他の光線による眼炎	夜盲症	
便秘薬 (2)	腸内異常発酵 腸内容物の急速な排除		
痔疾用薬 (5)	かゆ痔 痔の疼痛	さけ痔 はれ痔	痔核
外用鎮痛・消炎薬 (5) (塗布剤・貼付剤)	感冒性関節炎 テニス肘	腱鞘炎 ロイマチス	手指の角化
皮膚用薬 (35)	乾皮症 化膿性創傷 急性・慢性湿疹 口唇き裂 擦過傷 脂漏性湿疹 蕁麻疹 創傷 日光皮膚炎 粗糠疹 皮膚搔痒症 薬物性皮膚炎	外陰部搔痒症 化膿性皮膚疾患 くさ 肛門搔痒症 酒さ 脂漏性皮膚炎 癩 そこまめ 膿痂疹 ビダール氏苔癬 面ちょう 癰	角化症 貨幣状湿疹 口唇乾燥症 固定蕁麻疹 食餌性湿疹 尋常性痤瘡 接触性皮膚炎 疔 はたけ 皮膚潰瘍 毛嚢炎

表 13 各薬効群における低理解度用語の一覧 (続き)

薬効群	低理解度用語		
歯科口腔用薬 (6)	浮歯 智歯周囲炎 歯ぐきのむずがゆさ	歯齦炎 発赤	腫脹
眠気防止薬 (3)	驚風	小児五疳	小児虫気
鎮静薬 (3)	小児疳症	めざめ易い	吐乳
脱毛・養毛薬 (3)	粒糠性脱毛症	びまん性脱毛症	壮年性脱毛症
ビタミン・カルシウム製剤 (ドリンク剤を含む) (12)	赤鼻 くる病 指掌角皮症 唾液腺機能の低下	脚気 口角炎 舌炎 発熱性消耗性疾患	強壯 酸性体質 腺病質 末梢血行障害
女性用保健薬 (9)	下腹腰痛 帯下 婦人諸病 下腹腰足引つり痛み	こしけ 血の道症 トリコモナス性皮膚炎	嗜眠 ひきかぜ
漢方薬・生薬製剤 (23)	胃腸カタル 緩解 急性皮膚疾患 三叉神経痛 ネフローゼ 肥胖症 膀胱カタル 腹部筋肉が弛緩する みぞおちがつかえた感じ	咽喉頭の違和感 下肢痛 去痰 しぶり腹 排膿 鼻閉 肋間神経痛	咽喉不快 肩関節周囲炎 後頭神経痛 脱肛の痛み 醗酵性下痢 不安神経症 腕神経痛
その他 (5)	四十腰 寄生虫性貧血	筋肉の異常緊張 血清高コレステロール	気つけ



#### 4. 考察

本調査より、OTC薬の添付文書の「効能又は効果」の用語の約3割は、消費者の用語の理解度が60%に満たない用語（低理解度用語）であることが明らかとなり、135用語が抽出された。

各群共通用語の理解度は、「くしゃみ」の理解度に関して、3群間において有意差が認められ、B群がA、C群と比較して92%と低く、また「いぼ」、「解熱」の理解度に関してもそれぞれ85%、83%とA、C群よりも低かった。さらに分かると回答した各群共通用語が1~4用語である人が31人と、A群の23人、C群の21人と比較して多かったことから、3群間における対象者の基礎知識に偏りがあると考えられた。よって各群共通用語の5用語全ての意味が分かると回答した225人における各用語の理解度を評価することが適当であると判断して、解析を行った。

今回調査した用語の理解度において、約8割の用語でルビのなし・ありによる差はないことが明らかとなった。一般的にルビがあることにより各用語の理解度が上がると予想していたが、「ルビなし」、「ルビあり」の両方が存在した215用語のうち、「ルビあり」の理解度が有意に高い用語は9用語である一方で、「ルビなし」の理解度が有意に高い用語は29用語であり、理解度に差があった用語は計38用語であった。

これら38用語のうち、ルビのなし・ありに関わらず理解度が60%未満である16用語に関しては、ルビに関係なく消費者に理解されていない用語であり、ルビ以外の表現方法により理解度を改善するべきであると考えられる。

残り22用語においては、「ルビなし」、「ルビあり」の少なくともどちらか一方の理解度が60%以上であり、7用語が「ルビあり」で、15用語が「ルビなし」で有意に理解度が高かった。まず「ルビあり」の理解度が有意に高い7用語では、7用語全てに関して一般向けの辞書である新明解国語辞典第6版（山田忠雄編、三省堂）、広辞苑第5版（新村出編、岩波書店）に記載されている用語であった。しかし、漢検漢字辞典第1版（宇野精一監修、財団法人日本漢字能力検定協会）にはそれら7用語中5用語（71.4%）は教育漢字、常用漢字以外の、漢字能力検定準1級又は1級レベルに相当する読みの難しい漢字を含んでいることから、これら用語はルビをふるることにより漢字の読みが分かり、用語の意味を理解できるものと考えられる。特にこれら用語のうち、理解度が「ルビなし」では60%未満であるが「ルビあり」では60%以上である4用語（「痰」、「蕁麻疹」、「脚気」、「腱鞘炎」）に関しては、ルビがない場合は低理解度用語であるがルビをふるることにより理解度が改善されることが明らかとなった。

つづいて、「ルビなし」の理解度が有意に高い15用語では、そのうち5用語（33.3%）が新明解国語辞典、広辞苑に、6用語（40.0%）は一般消費者が目にしなれないと思われる医学大辞典第18版（南山堂）に記載され、4用語（26.7%）はどの辞書にも記載されていなかったことから、約7割の用語が一般的に汎用されないと思われる用語であった。しかし、漢検漢字辞典第1版によると、15用語中12用語（80.0%）は教育漢字、常用漢字のみで構

成される用語であり、対象者が各用語に含まれる個々の漢字を読むことはできたと思われる。よってこれらの用語は、例えば「鼻出血」、「鼻汁過多」、「腹部膨満感」等のように、「ルビなし」において漢字から意味を推測することができるが、「ルビあり」においては漢字の正確な読みを知ること、知らない用語として認識することが考えられる。このことから、「ルビなし」の理解度が有意に高い用語に関しては、見かけ上理解度が高くなった可能性が考えられ、ルビがあるからといって消費者が用語を正確な意味により理解できるとは限らない用語があることが明らかとなった。これらに関しては、用語を他の分かりやすい用語にする、意味の注釈をつけるなど、表現方法の工夫が必要であり、今後、各用語における具体的な表現方法について個々に検討していく必要がある。また、これら用語は、OTC薬販売時における薬剤師その他の医薬関係者による消費者とのコミュニケーションの際に、話し言葉として用いた場合に、消費者が理解していない可能性が考えられるため、より簡単な表現を用いる必要があると思われる。

「かな用語」の理解度は、3用語（「蕁麻疹」、「痰」、「喘息」）において「ルビなし」と比較して有意に高かったが、「ルビあり」の理解度との間に有意差は認められなかったことから、かな表記にすることにより、理解度が改善される可能性が考えられるが、かな表記とルビをふることは用語の理解度に関してほぼ同じ改善効果をもたらすと思われる。また、先に述べたルビをふることにより理解度が低下する用語に関しては、かな表記にすることによっても消費者が理解できなくなる可能性が考えられる。「カッコ付き用語」の理解度は、「ルビなし」と比較した9用語中5用語（「腱鞘炎」、「末梢血行障害」、「頭重」、「咽頭痛」、「腸内容物の急速な排除」）において有意に高く、「ルビあり」と比較した7用語中4用語（「眼瞼炎」、「末梢血行障害」、「頭重」、「咽頭痛」）において有意に高かったことから、ルビなし・ありに関わらず、（ ）内の意味の記載は用語の理解度を改善させると考えられる。

用語の表現方法のほかに、個人の理解度に影響を及ぼすと考えられる背景因子を検討した結果、性別では「女性」の理解度が有意に高く、年齢が高くなる程理解度が高くなる傾向が認められた。職業では「学生」、「職あり」、「職なし」の順で有意に高くなり、これは「職なし」に主婦である女性、又は高齢者が多いことが関連していると思われる。漢字能力検定の取得の有無では、「なし」の理解度が有意に高く、これは漢字能力検定取得者に低年齢層の人が多く含まれることが考えられる。また、健康への関心の程度が大きいほど、または過去に病気をしたことがある人、あるいは現在病気である人の方がよりOTC薬の「効能又は効果」の用語に関して知識がある可能性が考えられた。さらに、個人の理解度への影響度を数量化理論Ⅰ類を用いて総合的に評価した結果では、特に「年齢」のレンジ、偏相関係数が最も高く、正答率に最も大きく影響を与える要因として「年齢」が考えられた。これら個人の理解度に関する結果は、第Ⅰ章での検討とほぼ同様であった。

OTC薬の「効能又は効果」に使用されている用語または表現の中で、理解度が低い用語または表現（低理解度用語）として、135用語が抽出された。低理解度用語には、皮ふ用薬や漢方薬・生薬製剤の「効能又は効果」の項目に記載されている用語が多く、皮ふ用薬の

「靴擦れ」、眠気防止薬の「小児五疳」のように、読みや意味の理解において一般人には非常に難解な用語が用いられていた。さらに、OTC薬の「効能又は効果」における表現方法が一般用医薬品製造販売承認基準によって決められている用語は、低理解度用語の中に21用語(15.6%)含まれていた。これら用語に関しては、消費者を対象とした各用語の理解度を調査し、理解度を改善するような表現方法を検討し、企業間で統一することが必要であると考えられる。

今回の検討より、これらの用語の理解度を向上させるための方策として、用語に「ルビ」をつけた方がよいもの、「ルビ」よりもカッコ内の意味の記載が効果的であるものがあり、添付文書の作成段階において、各用語の理解度を事前に調査する必要があると考えられる。

本研究は、平成19年度厚生労働科学研究費補助金の助成を受けて行なった。

#### 引用文献

- 1) 日本大衆薬工業協会. 第31回消費者意識調査報告 2007  
([http://www.jsmi.jp/research/isiki\\_31/31.pdf](http://www.jsmi.jp/research/isiki_31/31.pdf))
- 2) 日本大衆薬工業協会. 第24回消費者意識調査報告 2002  
([http://www.jsmi.jp/research/isiki\\_24/isiki\\_24.html](http://www.jsmi.jp/research/isiki_24/isiki_24.html))
- 3) 日本貿易振興会 JETRO. 対日アクセス実態調査報告書—大衆薬— 2000
- 4) Takashi Usami, Masayuki Hashiguchi, Miyuki Suenaga, Mayumi Mochizuki. Use of over-the-counter medicines by patients with the common cold symptoms in Japan. *Japanese Journal of Drug Informatics* 2007; 9(2): 24-28
- 5) 齋藤充, 宇佐美孝, 橋口正行, 末永美由紀, 望月眞弓. 医療機関受診前の一般用医薬品の使用実態に関する調査研究～消化器症状、頭痛での検討～. *医薬品情報学* 2007; 9(3): 15-20
- 6) 日本大衆薬工業協会. 第30回消費者意識調査報告 2006  
([http://www.jsmi.jp/research/isiki\\_30/30.pdf](http://www.jsmi.jp/research/isiki_30/30.pdf))

一般用医薬品の添付文書用語に関する理解度調査  
～効能又は効果の用語に関する検討～

この度は、ご多忙のところアンケート調査にご協力いただきありがとうございます。私たちは、消費者のみなさまが一般用医薬品（市販薬・OTC薬）を正しく購入又は使用するために、添付文書に記載されている効能又は効果の用語について効果的な表現方法の検討を行なっております。今回、これらの用語に関する理解度を調査し、用語の表現方法の検討に利用させていただく予定です。

多少お時間を頂戴することになりますが、どうぞよろしくお願い致します。

**問1** 以下の(1)～(11)の質問について、回答を記入又は、該当する答えに○をつけて下さい。

(1) 年齢・性別を教えてください。

年齢（            ）才            （男・女）

(2) 職業は次のうちどれに当てはまりますか？

- |            |                          |          |
|------------|--------------------------|----------|
| 1. 会社員・公務員 | 2. 自営業                   | 3. 医療従事者 |
| 4. 主婦      | 5. 学生（専門領域：            ） |          |
| 6. 無職      | 7. その他（            ）     |          |

(3) 最終学歴は次のうちどれに当てはまりますか？

- |                             |        |
|-----------------------------|--------|
| 1. 中学卒                      | 2. 高校卒 |
| 3. 専門学校卒（専門領域：            ） |        |
| 4. 短大卒（専門領域：            ）   |        |
| 5. 大学卒（専門領域：            ）   |        |
| 6. 大学院卒（専門領域：            ）  |        |
| 7. その他（            ）        |        |

(4) ご家族の中に医療従事者の方はいらっしゃいますか？

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

次ページの(5)へ進んで下さい。

(5) 漢字能力検定を取得されていますか？

1. はい  
↓

2. いいえ → (7)へ進んで下さい。

(6) (5)で「1. はい」を選択された方のみお答えください。取得された漢字能力検定の級は何ですか？

漢字能力検定 ( ) 級

(7) 「健康」について、どのくらい関心がありますか？

1. 関心がある
2. 少し関心がある
3. 関心がない

(8) 現在、過去に通院や入院が必要な病気をしたことがありますか。

1. はい  
↓

2. いいえ → 次ページの(10)へ進んで下さい。

(9) (8)で「1. はい」を選択された方のみお答えください。その病気の名前は何ですか。

差し支えない範囲で結構ですので( )内に記入してください。

( )

次ページの(10)へ進んで下さい。

(10) 今までに市販薬を購入又は使用されたことはありますか？

1. はい

2. いいえ

次ページの問2へ進んで下さい。

(11) (10)で「1. はい」を選択された方のみお答えください。今までに購入又は使用されたことのある市販薬の種類は次のうちどれですか？(あてはまるものすべての番号に○をつけて下さい。)

1. 解熱薬・頭痛薬

2. かぜ薬

3. 胃腸薬

4. 目薬

5. 便秘薬

6. 貼り薬

7. 皮ふ用薬

8. 栄養ドリンク剤 → 【商品名：

】

9. ビタミン剤 → 【商品名：

】

10. その他 (商品名・効能又は効果等)

( )

次ページの問2へ進んで下さい。

問2 次の1～169の用語について、意味が分かるものに番号に○を付けてください。

- |                |             |
|----------------|-------------|
| 1. 皮膚搔痒症       | 26. 智歯周囲炎   |
| 2. 毛嚢炎         | 27. さしこみ    |
| 3. 気管支カタル      | 28. 皮膚の炎症   |
| 4. 胃重          | 29. とびひ     |
| 5. くしゃみ        | 30. 口角炎     |
| 6. 感冒          | 31. 音響外傷性難聴 |
| 7. 口唇乾燥症       | 32. 夜盲症     |
| 8. 水腫          | 33. 更年期神経症  |
| 9. 急性皮膚疾患      | 34. 筋肉痛     |
| 10. 偏食児        | 35. 接触性皮膚炎  |
| 11. ロイマチス      | 36. 肛門搔痒症   |
| 12. 骨折の痛み      | 37. 腫脹      |
| 13. 肋膜炎        | 38. 咽喉痛     |
| 14. 癩          | 39. 卹糠性脱毛症  |
| 15. 後頭神経痛      | 40. 耳痛      |
| 16. 酒さ         | 41. そこまめ    |
| 17. 肥胖症        | 42. 皮膚潰瘍    |
| 18. 疔          | 43. 暑気あたり   |
| 19. 筋肉の異常緊張    | 44. 三叉神経痛   |
| 20. びまん性脱毛症    | 45. くすりまけ   |
| 21. 胃部膨満感      | 46. 擦過傷     |
| 22. 血清高コレステロール | 47. かゆ痔     |
| 23. 咽頭炎        | 48. 扁桃腺炎    |
| 24. 去痰         | 49. 脂漏性皮膚炎  |
| 25. 排膿         | 50. めんちょう   |

- |     |                                 |      |                                |
|-----|---------------------------------|------|--------------------------------|
| 51. | 若禿                              | 76.  | トリコモナス性皮膚炎 <sup>せいひふえん</sup>   |
| 52. | 化膿性創傷 <sup>かのうせいそうじょう</sup>     | 77.  | 壮年性脱毛症 <sup>そうねんせいだつもしょう</sup> |
| 53. | くる病                             | 78.  | 悪心                             |
| 54. | 食餌性湿疹                           | 79.  | 小児疥症 <sup>しょうにかんじょう</sup>      |
| 55. | 肩関節周囲炎 <sup>かたかんせつしゅういせん</sup>  | 80.  | 発赤                             |
| 56. | 五十肩                             | 81.  | 胃下垂症 <sup>い かつししょう</sup>       |
| 57. | 薬物性皮膚炎 <sup>やくぶつせいひふえん</sup>    | 82.  | 眼瞼炎 <sup>がんげんえん</sup>          |
| 58. | 嗜眠                              | 83.  | 貨幣状湿疹                          |
| 59. | いぼ                              | 84.  | しぶり腹                           |
| 60. | 外陰部掻痒症 <sup>がいいんぶ そうようしょう</sup> | 85.  | 臭鼻症 <sup>しゅうびししょう</sup>        |
| 61. | さめ肌                             | 86.  | 血の道症 <sup>ちのみちししょう</sup>       |
| 62. | 舌炎 <sup>ぜつえん</sup>              | 87.  | 鼻汗過多 <sup>びじょうかた</sup>         |
| 63. | 肋間神経痛 <sup>ろつかんしんけいとう</sup>     | 88.  | 養毛育毛 <sup>ようもういくもう</sup>       |
| 64. | 急性・慢性湿疹                         | 89.  | 喘息                             |
| 65. | 腱鞘炎 <sup>けんしやうえん</sup>          | 90.  | 蓄膿症 <sup>ちくのうししょう</sup>        |
| 66. | 化膿症 <sup>かのうししょう</sup>          | 91.  | 扁桃周囲炎 <sup>へんとうしゅういせん</sup>    |
| 67. | 歯垢の沈着                           | 92.  | 夜尿症 <sup>やにょうししょう</sup>        |
| 68. | 強壯                              | 93.  | 末梢血行障害                         |
| 69. | 感冒性関節炎 <sup>かんぼうせいかんせつえん</sup>  | 94.  | 創傷 <sup>そうししょう</sup>           |
| 70. | 指掌角皮症 <sup>ししやうかくひししょう</sup>    | 95.  | 咽喉がはれて痛む <sup>いんとう</sup>       |
| 71. | みぞおちがつかえた感じ                     | 96.  | 醃酵性下痢                          |
| 72. | 浮歯                              | 97.  | 歯齦炎 <sup>しぎんえん</sup>           |
| 73. | 痰                               | 98.  | 吐き気                            |
| 74. | 神経性皮膚炎 <sup>しんけいせいひふえん</sup>    | 99.  | 疼痛                             |
| 75. | 頭重 (頭が重い)                       | 100. | 副鼻腔炎 <sup>(こう)</sup>           |



- |      |                     |      |                        |
|------|---------------------|------|------------------------|
| 101. | 不安神経症<br>ふあんしんけいしやう | 126. | 湿疹                     |
| 102. | はたけ                 | 127. | 角化症<br>かくかしやう          |
| 103. | 歯槽膿漏                | 128. | 結膜炎<br>けつまくえん          |
| 104. | 解熱                  | 129. | 化膿性皮膚疾患<br>かのうせいひふしつかん |
| 105. | 日光皮膚炎<br>にっこうひふえん   | 130. | 骨歯の発育促進<br>こつしはつよくしん   |
| 106. | 酸性体質                | 131. | 咽喉炎<br>いんこうえん          |
| 107. | 胃部不快感<br>いぶふかいかん    | 132. | 脚気                     |
| 108. | 結膜充血                | 133. | さかむけ                   |
| 109. | 化膿性皮膚炎<br>かのうせいひふえん | 134. | 伝染性皮膚炎<br>でんせんせいひふえん   |
| 110. | 産前産後                | 135. | 尿量減少<br>にようりやうげんしやう    |
| 111. | 整腸                  | 136. | 虚弱児                    |
| 112. | かき傷                 | 137. | 扁桃炎<br>へんとうえん          |
| 113. | 口唇炎<br>こうしんえん       | 138. | 咽喉不快<br>いんこうふかい        |
| 114. | 下腹腰痛                | 139. | ねんざ痛                   |
| 115. | 鼻出血<br>びしゅっけつ       | 140. | 腸内異常発酵                 |
| 116. | 腎炎<br>じんえん          | 141. | きれ痔                    |
| 117. | 手指の角化<br>しゅしのかくか    | 142. | ほてり                    |
| 118. | 気管支喘息               | 143. | 嘔吐                     |
| 119. | 薄毛<br>うすげ           | 144. | 月経不順<br>げつけいふじゆん       |
| 120. | 骨折痛<br>こつせつづう       | 145. | 胃酸過多<br>いきんかた          |
| 121. | 肺結核                 | 146. | 筋ちがい                   |
| 122. | 神経性胃炎<br>しんけいせいいえん  | 147. | 血色不良                   |
| 123. | 眼精疲労                | 148. | 關節炎<br>かんせつえん          |
| 124. | 発毛促進<br>はつもうそくしん    | 149. | 円形脱毛症<br>えんけいだつもうしやう   |
| 125. | 顔面紅潮                | 150. | 動悸                     |

- |      |         |      |          |
|------|---------|------|----------|
| 151. | 老人性白内障  | 161. | 胃腸炎      |
| 152. | 気つけ     | 162. | 咽喉頭の違和感  |
| 153. | 歯肉炎     | 163. | 消化促進     |
| 154. | 血圧異常    | 164. | 病中病後     |
| 155. | 尿道炎     | 165. | もたれ      |
| 156. | 緩和      | 166. | 胃弱       |
| 157. | ビダール氏苔癬 | 167. | 唾液腺機能の低下 |
| 158. | 痔の疼痛    | 168. | 腺病質      |
| 159. | 刺傷      | 169. | 咽頭痛      |
| 160. | じんましん   |      |          |

質問は以上です、お疲れ様でした。  
ご多忙のところ、本調査にご協力いただきありがとうございます。

本調査は、医療法人相生会、北里大学薬学部臨床薬学研究センター 医薬品情報部門、共立薬科大学医薬品情報学講座との共同で行なっております。ご記入いただいたアンケート結果は、集計した後、個人が特定されない形で学会、論文等で発表させていただくこともあります。

北里大学薬学部臨床薬学研究センター 医薬品情報部門  
担当者：橋口 正行 宮岡 麻衣  
TEL：03-5791-6233

一般用医薬品の添付文書用語に関する理解度調査  
～効能又は効果の用語に関する検討～

この度は、ご多忙のところアンケート調査にご協力いただきありがとうございます。私たちは、消費者のみなさまが一般用医薬品（市販薬・OTC薬）を正しく購入又は使用するために、添付文書に記載されている効能又は効果の用語について効果的な表現方法の検討を行なっております。今回、これらの用語に関する理解度を調査し、用語の表現方法の検討に利用させていただく予定です。多少お時間を頂戴することになりますが、どうぞよろしくお願い致します。

**問1 以下の(1)～(11)の質問について、回答を記入又は、該当する答えに○をつけて下さい。**

**(1) 年齢・性別を教えてください。**

年齢 (            ) 才 (男・女)

**(2) 職業は次のうちどれに当てはまりますか？**

- |            |                         |          |
|------------|-------------------------|----------|
| 1. 会社員・公務員 | 2. 自営業                  | 3. 医療従事者 |
| 4. 主婦      | 5. 学生（専門領域：           ） |          |
| 6. 無職      | 7. その他（           ）     |          |

**(3) 最終学歴は次のうちどれに当てはまりますか？**

- |                            |        |  |
|----------------------------|--------|--|
| 1. 中学卒                     | 2. 高校卒 |  |
| 3. 専門学校卒（専門領域：           ） |        |  |
| 4. 短大卒（専門領域：           ）   |        |  |
| 5. 大学卒（専門領域：           ）   |        |  |
| 6. 大学院卒（専門領域：           ）  |        |  |
| 7. その他（           ）        |        |  |

**(4) ご家族の中に医療従事者の方はいらっしゃいますか？**

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

**次ページの(5)へ進んで下さい。**

